

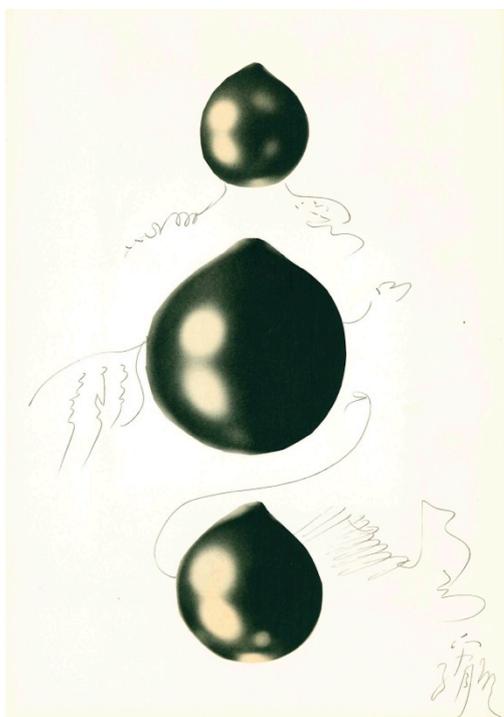
MISA SHIN GALLERY

1-2-7 Shirokane, Minato-ku, Tokyo 108-0072 JAPAN

tel:+81-(0)3-6450-2334 fax:+81-(0)3-6450-2335

www.misashin.com info@misashin.com

た。松澤の仕事は、そのような流れに位置付けられながらもその思想や方法は欧米の定義であるコンセプチュアル・アートとは一線を画し、松澤は自らの作品を「観念美術」と呼びました。文字のみの作品やパフォーマンスによる表現は、カタストロフィー（終末）理論、両界曼荼羅の思想、量子芸術として物理学や数学が開示する世界と通底しつつも、独自の宗教観や宇宙観に基づく展開を示し、極限までにそぎ落とされた表現形態は消滅へと向かうなまめかしさに満ちています。



松澤宥 1950年代後期

本展では、松澤の半世紀以上に渡るキャリアの中から、50年代後半のドローイング、コラージュ作品と、64年以降の言語による作品を「松澤宥 Ψ の函」（1983年）から、「プサイの死体遺体」、「はがきに挿まった絵」、「白鳥の歌」、「九想の室」などを展示いたします。松澤が「オブジェを消せ」という啓示を受けて50年、松澤の美術と観念の間答をその「消滅」から始めたいと思います。

MISA SHIN GALLERY では初の個展となる、松澤宥の「消滅より始めよ」をどうぞご高覧下さい。

松澤宥（まつざわゆたか）

1922年2月2日長野県諏訪郡下諏訪町生まれ。1946年、早稲田大学工学部建築科卒業。ほどなく下諏訪に戻り、49年詩集「地上の不滅」刊行。52年、美術文化協会12回展に初出展。55年、フルブライト留学生として米国に学ぶ。58年、第10回読売アンデパンダン展に出展「唯心論シリーズ」を出展。以降、63年まで毎年出展。64年6月1日深夜、「オブジェを消せ」という啓示を受け、概念芸術家としての活動を始める。76年、ベニス・ビエンナーレ、77年サンパウロ・ビエンナーレをはじめ海外での発表を多数行い、欧米にもその名を知られる。00年以降、斉藤記念川口現代美術館、東京国立近代美術館、豊田美術館など国内での展覧会にも参加。06年10月15日、郷里の長野県下諏訪で84歳の生涯を閉じる。

お問い合わせ：info@misashin.com tel:03-6450-2334